

群馬県議会 リベラル群馬

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
http://www.ccrgoto.com/
http://www.eaglesgoto.com/(スマートフォン用)

後藤かつみ

2018年2月定例会報告

街頭演説
2800
日

「道の駅」の生みの親であり、山村振興策の権威である、徳野貞雄熊本大学名誉教授を招き、南牧村にて学習会を開催。徳野氏が提唱する、「世帯」と「家族」の違いに着目した「T型集落点検」のエッセンスを学ぶ。



CONTENTS

- I 新年度予算を独自の視点で検証
- II 公共交通再生～やれることは何でもやる！意欲に満ちたビジョンを策定～
- III 山村地域再生～山村振興の「権威」の教えを活かす～

後藤の視点からの新年度予算のポイント

財政の健全化

- 財政調整基金(県の貯金)の取り崩しを抑制

人への投資(子育て・教育)

- スクールソーシャルワーカー(家庭等に問題を抱える子どもを支援する専門員)の増員
- 第3子以降3歳児未満児の保育料免除(3億円)

人への投資(福祉・医療)

- 障がい者雇用の農・福連携事業(530万円)
- 健康寿命の延伸促進(860万円)

人への投資(雇用・人材育成)

- 介護・保育人材の確保(1億5,000万円)
- ロボット・EV技術分野の人材育成(1,000万円)

公共交通の再生

- 県内バス路線をデータ化し、スマートフォンなどで検索できる乗換検索サービスの実用化(6,000万円)
- 交通空白地における「相乗り」タクシーなど、新たな移動手段の導入実験(520万円)

山村地域の再生・U・Iターン促進

- 首都圏からの移住相談窓口「ぐんま暮らし支援センター(銀座に開設)」(4,300万円)
- U・Iターン(Gターン)推進(5,700万円)

新年度予算を独自の視点で検証

「人への投資」分野等で施策充実

リベラル群馬は、毎年の知事への予算提言において、「人への投資」を軸とした政策への転換を求めています。その観点からも評価できる施策が多数盛り込まれています。

また、後藤がこだわり続ける「公共交通・山村地域の再生」においても、施策が大きく前進しつつあります。

財政健全化へのきっかけとなるか

財政調整基金は、減債基金と合わせ県の「貯金」と言われ、災害など不測の支出や収入不足に備える大事な財源です。

近年、この基金を大きく取り崩す財政運営が続いており、後藤は、適正額の確保が必要であると指摘してきました。

新年度予算では、基金の取り崩しを10億円抑えた編成をしており、健全化への一歩となることを期待したいところです。



リベラル群馬、大澤知事に次年度予算に向けた提言書を提出(昨年12月)

後藤も本会議の場で、県レベルで計画を策定している長野県や滋賀県の事例を紹介してきましたが、本県の「戦略」は、先進県の計画よりも数段優れた内容と評価できます。

その特徴は、①パーソントリップ調査(県民の生活行動の調査)による科学的根拠に基づいた分析をしている。②旧役場・商店街などの「まちのまとまり」に同居

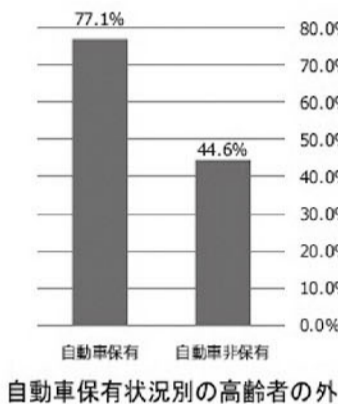
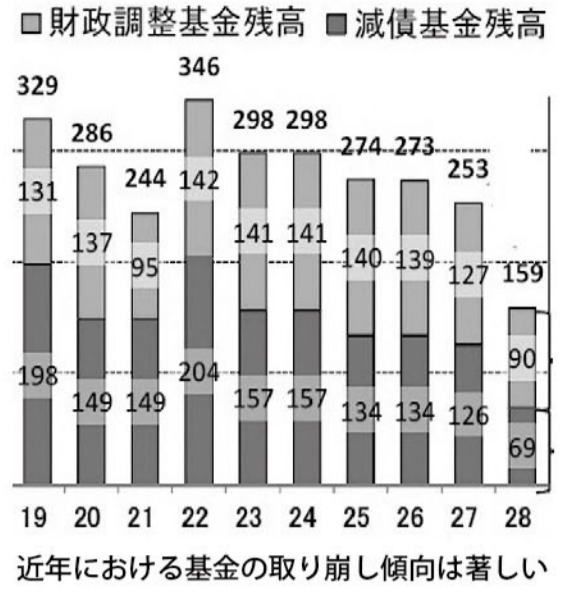
やれる施策は何でもやる

「戦略」では、単に交通弱者のための移動手段という意義にとどまらず、①若者(女性)、企業に対する魅力度向上、②高齢者の社会参加および医療費削減など、高齢化・人口減少社会に豊かさをもたらすインフラとしての意義を強調しています。

後藤が、本会議で提言してから2年、初めての公共交通再生計画である「ぐんま交通まちづくり戦略」が策定されました。後藤は、本県における問題は、「なぜ公共交通が重要なのか」という根本部分の認識が乏しいことにあると考え、策定にあたっては、公共交通の積極的意義を強調すべきと提言してきました。

公共交通の積極的意義を強調

公共交通再生
「やれることは何でもやる!」
「意欲に満ちたビジョンを策定」



本県にUターンしない理由は「働き口」よりも、「公共交通」や「街づくり」。都会のライフスタイルに慣れた若者のU・Iターン促進のためにも公共交通は必要。

「1歩歩くと医療費が0.061円削減される」という研究結果もあるように、自家用車を持たない高齢者が公共交通で「外出すること」は健康寿命の増進にも寄与する入りようです。

しかし、前頁に紹介した施策やICカードの導入検討(1千万円)など、バス等の利便性向上や交通弱者の足の確保に向けて積極的な施策が多く盛り込まれました。更には、高崎駅東口から東毛方面まで延びる国道354号沿線を高速バスで繋ぐ「BRT構想」という夢のような施策まで検討予算(1千万円)を付けるなど、これまでとは隔世の感すらする熱の入りようです。

新年度予算からエンジン全開

「戦略」を絵に描いた餅にしないためにも、「予算」が付いてこなければ始まりません。

しかし、前頁に紹介した施策やICカードの導入検討(1千万円)など、バス等の利便性向上や交通弱者の足の確保に向けて積極的な施策が多く盛り込まれました。更には、高崎駅東口から東毛方面まで延びる国道354号沿線を高速バスで繋ぐ「BRT構想」という夢のような施策まで検討予算(1千万円)を付けるなど、これまでとは隔世の感すらする熱の入りようです。

後藤もその教えを活かし、自ら主宰するNPOの活動を通じて、できることから実践していく所存です。

山形地域の再生策というところ、6次産業化やグリーンツーリズムなどの施策が浮かびますが、徳野氏は、そのような経済(カネ・所得)重視の施策には否定的です。山村を都市と同じ土俵で「金銭的」な尺度で測る発想が、山村地域の持つ本当の価値を見えなくさせていると徳野氏は教えてくれます。

山形地域再生については、前頁にも紹介したとおり、首都圏での移住相談窓口「ぐんま暮らし支援センター」など、「入口」の施策は充実してきました。

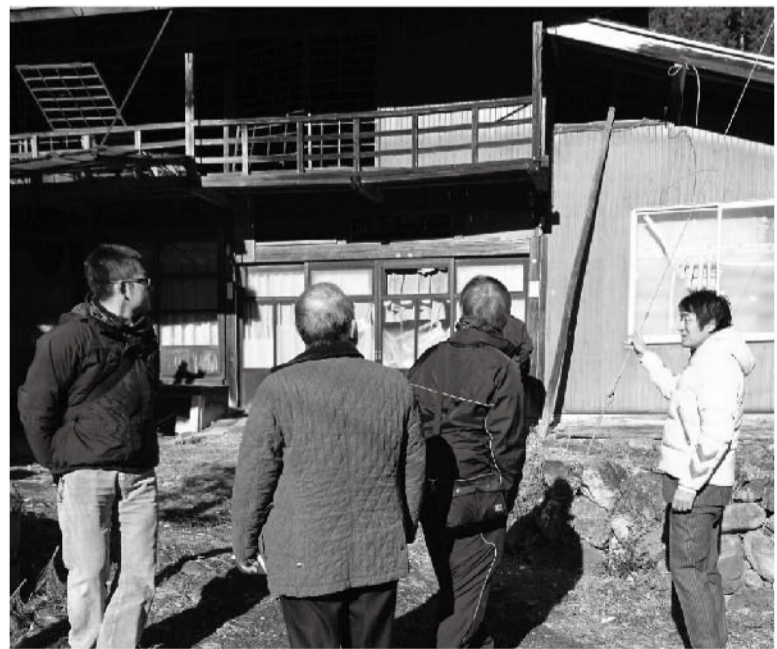
今後は、いかにU・Iターン者を山形地域に「受け入れ」ていくかに重点が移ります。県は2月に「道の駅」の生みの親であり、山村振興の権威的学者である徳野貞雄熊本大名誉教授を招き学習会を開催。

山村地域再生

山村振興の「権威」の教えを活かす



群馬大学が先進的に取り組んでいる自動運転技術の実験状況を調査。人手不足に悩む公共交通を救うだけでなく、夜間等の運行も可能にするなど、夢が膨らみます。



南牧村の空き家調査事業を視察

地域活動三二報告 地域の声と共に、安心安全な環境づくりに努めています。



〈六郷地区〉 区長会・六郷小と連携し、東和銀行手前の十字路に歩行者用信号を要望・設置。



〈新高尾地区〉 新高尾小学校の通学路区間の歩道未整備区間の安全対策として、注意喚起の路面標示を実施。